

# 第17号 南部箕蚊屋広域連合

## まめ・カフェ通信

### ～第17回まめ・カフェ開催報告～

令和5年6月29日（木） 18:30～20:00

伯耆町農村環境改善センター 多目的ホール

参加者 35名（参加者 30名、スタッフ 5名）

（ 医師、薬剤師、保健師、看護師、理学療法士、  
社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士、その他 ）

#### ミニ講座

- 「支え愛・助け合い体制づくり（生活支援体制整備事業）  
～地域の課題をみんなで共有しよう～」

南部箕蚊屋広域連合 伯耆地域包括支援センター  
社会福祉士 後藤 彰信

- 生活支援体制整備事業の取り組み内容と見えてきた地域課題

生活支援コーディネーター（南部町社協）	青砥 雅史
生活支援コーディネーター（伯耆町社協）	仲村 玲子
生活支援コーディネーター（伯耆町役場）	本田 典子
生活支援コーディネーター（日吉津村社協）	荒嶋 みどり

#### まめ・カフェとは??

医療や介護、地域に関わる私たちの仕事ってまめでなければつとまらない。

「まめなかや?（元気ですか）」と、こまめな声かけが関係づくりの第一歩!…多職種が気軽に集ってまめに話せる場所が欲しい☆という声からできたのが、

**まめ・カフェ**です♪

最初に、伯耆地域包括支援センターの後藤社会福祉士から「支え愛・助け合い体制づくり（生活支援体制整備事業）～地域の課題をみんなで共有しよう～」というテーマで、事業の説明がありました。

次に、地域別に4つのグループに分かれ、各地域の生活支援コーディネーター（SC）から取り組み内容と見えてきた地域課題について説明をしていただきました。

その後のグループディスカッションでは、参加者間で日々のお仕事を通してかかわった方々が抱える生活支援や介護予防の困り事、また、講座を聞いての感想や疑問に思っていることを話し、全体発表を通して情報の共有を行いました。



## 《参加者の感想》

【 アンケート結果より 】（回収数 27）

まめ・カフェに参加していかがでしたか？

- |           |    |
|-----------|----|
| 1. 大変良かった | 14 |
| 2. よかった   | 10 |
| 3. 普通     | 2  |
| 4. 未回答    | 1  |



- SCの方やケアマネさんの意見 地域の状況等確認することができた。
- 状況に合わせて専門職としてどう活動していくのか少し見えたような気がします。
- 他町の話がなかなかきくことができないので、いろいろな取り組みを聞いて良かったです。
- 地域の高齢者の困りごとをこのような会議の形で討論する場があると、業務に関わる中でも違った目線で見れるようになると思う。
- 発表でもあったが、助けてと声を発することができる方はそれに対応できるが、きっと声を発することができない方や、相談場に行くことに抵抗がある人も多いと思う。そのような人たちが楽に気持ちや困りごとを話せる環境づくりが必要だと改めて思った。
- 普段地域全体の問題について話合うことが少なく個別支援の話合いがほとんどなので、多職種で討議と情報共有ができて良かったです。
- SCの動きがわかり参考になりました。今後困ったことがあれば相談させてもらいたいです。
- 初めての参加でしたが、様々な職種の方々に色々な見方ができ対応も考えることができとてもよい会だと思いました。
- 利用者の声もあげることができ、もっと色々な意見を出し合うことで住みやすい村にできると思いました。
- 行政、住民、介護の連携が重要ですが住民の理解促進が難しそうです。
- 皆さんの色々な視点からの意見を聞くことができて良かったです。
- 高齢化や独居世帯、老々介護が増え介護保険サービスの事業所、受入れ先が不足する中において町内の取組や社会資源について具体的に説明を受けることができとても勉強になりました。
- 各々の専門職の立場での課題等理解できた。
- 新たに介護について考えなおす機会となった。
- それぞれの職種で患者さん、担当者からニーズを聞くが解決にいたらず生命には関係ないためそのままになっている。
- 地域課題が何かみえてよくわかった（皆さん買い物で困っていること、受診時等の移動の困りごとなど）。
- SCさんへ 声なき声をひろってほしい。そしてつなげてほしい。
- 病院やケアマネさんが地域とのかかわりがなく、どこに相談すればいいのかという意見を伺い実情を知ることができた。
- SCも病院やケアマネさんとかかわる機会がなかったので今日は参加してよかったと思います。
- まだまだ課題があり地域の方との話し合いを行い決めていかないといけないことがあることがわかった。
- 久々に直接に話し合える機会ができてよかった。
- 地域の課題を解決する手段のひとつに事業所側として協力できることがあれば、いくらでも声をかけてほしいです。いくらでも地域のことに協力したいと思っています。



☆アンケート結果の一部をご紹介します。

ご協力ありがとうございました。次回も、皆さまのご参加をお待ちしております！